

9. ME 部機構の確立と高気圧酸素治療の現状

下山芳正 荒野隆之 渡部 悟
 山内良司 古川博一 谷村 仁
 中越 潔 沢口智美 峯廻攻守
 前久保博士
 (医療法人手稲溪仁会病院 ME 部)

当院は昭和62年に総合病院として、札幌市手稲区に開設した。規模500床、診療科目16科、平均外来患者数は700名を数え地域医療はもとより、広く北海道の代表的病院として位置付けられるよう努力中である。当 ME 部は開院1年後に発足しその後 ME 技術者の統合と臨床技術提供内容の確立、ME 機器中央管理システムの導入等を行った。今回、我々は ME 部機構確立までの約3年間の経過と、各科に対応してきた高気圧酸素治療の経過と現状について若干の検討を加えたので報告する。

10. 北里大学病院高気圧酸素治療室の過去5年について

飯島光雄*¹⁾ 池田光喜*¹⁾ 本多 隆*¹⁾
 西川 温*¹⁾ 新藤正輝*²⁾ 渡辺 敏*³⁾

* ¹⁾ 北里大学病院 ME センター部
* ²⁾ 北里大学医学部救命救急医学
* ³⁾ 同 麻酔科

北里大学病院高気圧酸素治療室は昭和61年4月より、救命救急センター地下1階に開設された。当初、ME センター技士1名、救命救急センター医師1名、看護婦1名により、治療を開始した。

治療装置は、羽生田製 P2000S 型2種装置である。治療装置は救命救急センターの管理であるが、各診療科が使用できるように依頼用紙を作成し救命救急センター医師が依頼を受ける。

5年間に治療をうけた患者数は608例、うち救急的疾患152例、加圧回数は2378回、うち緊急加圧(17時から8時30分まで)回数275回、延べ治療回数は5823回である。

診療科で多いのは耳鼻咽喉科で次に救命救急センターの患者である。疾患では特発性難聴約66.5%、イレウス6.4%、無酸素性脳症3.8%、一酸化中毒3.2%である。

耳鼻咽喉科の軽度疾患の患者においては、外来治療もおこなっている。

今回、北里大学病院高気圧酸素治療室の5年間について、臨床工学技士の立場から考察する。